

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会

令和4年度事業報告

(令和4年1月1日～12月31日)

令和4年度実施した事業の概要は、次のとおりである。

1. 本協議会定期社員総会の開催

結核予防全国大会オンライン開催のため、本協議会の令和4年度定期社員総会を书面決議にて実施した。

2. 第73回結核予防全国大会の後援

結核予防会主催の第73回結核予防全国大会を後援したが、新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン開催となった。なお、本協議会関連の主なる行事はすべて中止された。

【第1日】 3月8日(火)

配信拠点：リーガロイヤルホテル東京

イ. 研鑽集会〈オンライン〉

13:30～15:10

テーマ「低まん延 新たな目標に向かって～2025年罹患率7を目指して～」

基調講演

演 題：2025年までに罹患率7を目指して

演 者：森 亨（ストップ結核パートナーシップ日本 代表理事，結核予防会評議員会長）

座 長：加藤 誠也（結核研究所所長）

シンポジウム

①新型コロナウイルス感染症の流行の現状とこれから

川崎市健康安全研究所所長 岡部 信彦

②国内結核対策の取り組むべき課題ー保健所における結核対策から考えるー

大阪府茨木保健所所長 永井 仁美

③双方向性に見た日本と世界・アジアの結核対策ー低まん延化に向けて私たちに期待されることー

結核予防会国際部附部長 小野崎郁史

④コロナ禍における婦人会活動報告その2 全国結核予防婦人団体連絡協議会 事務局

ロ. 大会式典〈オンライン〉

15:15～16:30

式典 議事

3. 結核予防関係婦人団体幹部研修会の開催

結核予防関係婦人団体中央講習会を結核予防会との共催によりオンラインにより開催した。

地区別結核予防婦人団体幹部研修会を、開催地区結核予防会各支部と地元婦人会との共催のもとに開催を模索し、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より規模縮小・時間短縮等により実施、また一部中止となった。

結核予防を中心とした公衆衛生知識の向上と、各参加団体会員相互の交流を目的として実施した。

(1) 第26回結核予防関係婦人団体中央講習会

期 日： 令和4年3月1日(火)

場 所： KKRホテル東京(千代田区)・・・配信拠点

参加人数： 64名・・・視聴者数

(2) 地区別結核予防婦人団体幹部研修会

イ. 北海道地区 (北海道) 6月10日札幌市(札幌エルプラザ)

ロ. 関東地区 (長野県) 11月21日長野市

(THE SAIHOKUKAN HOTEL)

ハ. 東海・北陸地区 (富山県) 7月20～21日富山市(ホテルグランテラス富山)

ニ. 近畿地区 (奈良県) 中止

ホ. 中国・四国地区 (高知県) 11月14～15日高知市(県立県民文化ホール)

ヘ. 九州地区 (大分県) 11月25日速見郡日出町(ホテル&リゾート別府湾)

4. 結核予防週間の共催

厚生労働省、都道府県、政令市、特別区、結核予防会、日本医師会、並びに本協議会共催で、令和4年9月24日～30日に実施した。本週間中には、各地域において全国一斉複十字シール運動キャンペーンをはじめとする各種の行事を行うとともに、結核予防への関心を高めた。

5. 教育広報誌「健康の輪」の発行

結核及び公衆衛生全般の知識の向上と会員相互の連携を深める目的で発行しているものであるが、令和4年度は、例年通り3月、7月、11月にそれぞれNo.134、No.135、No.136を発行配布。体裁は、A4版、12頁で、年3回(1回につき30,000部)発行した。

6. 複十字シール運動の後援、実施

結核予防会主催、厚生労働省・文部科学省及び本協議会后援により実施されている本運動に参加し、結核予防の教育広報並びに資金造成に努める。

具体的には、以下の3事業を実施した。

(1) 複十字シール運動開始日(8月1日)を中心として、結核予防会本部役員と本協議会会長が厚生労働大臣を、結核予防会各都道府県支部幹部職員と本協議会各都道府県の会長が各知事を表敬訪問し、「大会宣言」の説明に加え、全国及び地域の結核の現状を報告することにより、複十字シール募金運動の意義を理解していただき、各自治体から結核予防思想について広く一般に伝え、一層の普及を図っていただくよう依頼した。ただし、新型コロナウイルス感染拡大のため見合わせた都道府県もあった。

(2) 結核予防週間の初日(令和4年9月24日)を中心として全国一斉複十字シール運動キャンペーンを、結核予防会各都道府県支部との協力の下に実施し、本運動及び結核予防の普及啓発を図った。

(3) 平成30年度から結核予防会が開始した寄付型自販機(飲料)の設置に婦人会組織の総力を挙げて協力した。

7. 普及広報資材の製作

全国一斉複十字シール運動キャンペーン資材(エコバッグ)を作成し、会員に配布した。

8. 国際協力

結核予防会が行っている国際協力事業を進めるにあたっては、複十字シール募金を通じて資金造成に協力した。

また、結核対策スタディツアーは婦人会役員と結核予防会各支部のシール担当者並びに一般の参加を募ることは、新型コロナウイルス感染拡大のため見合わせたが、開発途上国の婦人会への結核予防の知識普及啓発への協力をするため、カンボジア結核予防会への寄附を行った。

なお、新型コロナウイルス感染拡大ならびに物価高騰により、ツアー自体を8月に中止することを決断した。出国は容易だが、帰国時の検査および陽性時の対応が難しいことが大きい理由となった。

9. 世界結核デー

3月24日はWHOが制定した「世界結核デー」である。その周知についての広報活動を行い、「結核のない世界」をめざした。

10. ストップ結核パートナーシップ日本への参画

国内の結核対策を充実させ、結核低まん延国化を図る。またこれまでの知見を生かして結核が多い地域への支援を充実させる。このため、行政機関、研究機関、市民社会、民間企業などの多様なセクターで構成された連合体を組織し、加盟団体は協調して政治的支援、住民参加を得て日本と世界の結核対策を推進させた。

11. 生活習慣病対策の後援

これまでの僻地・離島を含めた全国津々浦々で結核健診と保健指導を一体として行ってきた経験と実績をこれからの生活習慣病対策に活かすべく、健診と保健指導を中心とする JATA 健康ネットワーク事業を結核予防会本部支部が組織を挙げて推進している。

今日的国民病となった生活習慣病対策に取り組む結核予防会を支援し、さまざまな健診の受診率向上の推進及び生活習慣病対策を国民運動に高めていった。

12. COPD対策事業への取組

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の早期発見と早期治療のための普及啓発を行っている結核予防会と協力し、COPD（慢性閉塞性肺疾患）に関する知識を深め国民の認識と理解を高めるために、地域住民をはじめとする社会への積極的な働きかけをして、第二次健康日本21の目標「80%の認知率」達成に協力した。

13. 世界禁煙デー

5月31日はWHOが制定した「世界禁煙デー」である。地球上からタバコの煙がない1日にする運動を行った。

14. 女性の健康週間の協力

厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会主唱の「女性の健康週間」に本協議会は協力関係団体として取り組む。3月1日～8日（ただし、地域の実情による期間延長等の変更は差し支えない）の本週間中には、子宮がん・乳がん健診等の受診率アップや、女性を取り巻く健康課題に対する社会的関心の喚起を図るため、行政が行う各種の啓発事業及び行事等に積極的に協力した。

15. 健康日本21推進全国連絡協議会への協力

すこやか生活習慣国民運動実行委員会の加入団体として、医療、保健、栄養（食生活）、運動、禁煙の各専門分野（分科会）からの情報を共有し、事業展開に協力していく。

また、厚生労働省主催のスマートライフプロジェクトイベントに積極的に参加し、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の知識を高め、禁煙支援や生活習慣病予防の普及啓発活動を行う。

16. 会議の開催

(1) 定期社員総会

期日 令和4年3月8日（火）（書面決議）

議案 令和3年度事業報告書 並びに収支決算書 について
令和4年度事業計画書（案）並びに収支予算書（案）について
役員を選任について

(2) 理事会

第1回

期日 令和4年2月15日（火）（書面決議）

議案 令和3年度事業報告書 並びに収支決算書 について
令和4年度事業計画書（案）並びに収支予算書（案）について
役員を選任について

第2回

期日 令和4年3月8日（火）（書面決議）

新理事の紹介、会長・副会長の互選について

第3回

期日 令和4年11月29日（火）

場所 結核予防会5階 大会議室（オンライン併用開催）

議案 令和5年度定期社員総会の開催について
令和5年度事業計画書（案）について
令和5年度収支予算書（案）について
情報公開規程案の制定について
個人情報保護方針案の制定について
理事会規則案の制定について
社員総会規則案の制定について
東庄女性の会の入会について
会長、副会長、執行理事からの活動報告